

各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業振興センター

「稲作情報（第6号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第6号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。

1. 気象概況

アメダス観測値（白石）

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R4 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R4 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R4 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R4 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R4 (hr)	平年比 (%)
6月	1	21.6	22.4	0.8	27.6	28.6	1.0	16.7	16.7	0.0	21.8	69.0	317	25.9	39.1	151
	2	22.3			27.8			17.8			28.6			23.0		
	3	22.8			27.9			18.7			40.9			21.2		
	4	23.3			27.9			19.7			58.6			18.8		
	5	23.9			28.1			20.6			74.3			15.4		
	6	24.6			28.4			21.6			84.4			14.1		

○6月1半旬の平均気温は、平年比べて0.8℃ほど高く推移した。降水量は、6月5日にまとまった雨が降ったことで平年比317となった。日照時間は多照傾向となった。

≪福岡管区気象台の1か月天気予報（6月2日発表）（予報期間 6月4日から7月3日まで）

冷たい空気に覆われやすいため向こう1カ月の気温は平年並か低く、特に期間のはじめはかなり低い日もあるでしょう。向こう1カ月の降雨量と日照時間は、ほぼ平年並の見込みです。

2. 水稻情報田の生育状況（調査日：6月6日）

項目 品種	年 次	草 丈 cm	茎数 本/m ²	主 稈 出葉数L	葉色 SPAD	概 要
コシヒカリ	本 年 値	58.2	628	11.6	37.8	<ul style="list-style-type: none"> 草丈および茎数は平年並み。 主稈出葉数は平年並み。 葉色は平年より淡い。葉色は順調にさめている。 幼穂長 3mm程度 幼穂形成始期 6月3日頃
	平 年 値	59.4	630	11.5	39.3	
	平年比（差）	98	99	+0.1	-1.5	

※ 平年値は、H21～R2年度の平均値、耕種概要は稲作情報N01参照

（管内の生育状況）

○現在、生育ステージは幼穂形成期を迎えている。

○強い中干し後、急に湛水状態に移行した圃場において、根痛みによる葉先の黄化を確認している。（かなり土壌表面が白乾した圃場にて確認している）。

3. 今後の管理

(1) 水管理

- ・「コシヒカリ」は幼穂形成期をむかえている。

幼穂形成期から出穂期にかけては要水量が増加する時期であるが、湛水を長く行うと根を傷める場合もあるので、引き続き間断灌水を行う。

(2) 肥培管理

○情報田の生育状況から判断すると、出穂前23日頃と推定される。

○穂肥施用の目安は、幼穂長 15 mmの時（出穂前18日頃）に群落葉色が 3.3~3.7 程度 (36.0~39.5)まで低下したら、ゴールド有機50を10kg/10a施用する。

必ず穂肥診断を行い、幼穂長と葉色の状況を確認し下記の葉色診断基準を参考にする。

ただし、いもちの病斑が上位3葉以内にある圃場では、穂肥で窒素濃度が高まり降雨が続くと、「いもち病」の好適発生条件となるため、穂肥施用量は減ずる。

表1 コシヒカリの出穂前日数と幼穂長の関係

出穂前日数	26	23	20	18	15	12
幼穂形成始期からの日数	0日	0~3日	3~6日	6~8日	8~11日	11~14日
幼穂長 (mm)	1mm	1~3mm	8~12mm	15~20mm	25~30mm	30mm以上
草丈 (cm)	~72cm	~75cm	~78cm	~80cm	~83cm	~
穂肥の施用時期				←→		

例) 幼穂長 15~20mm の時（出穂前 18 日頃）が穂肥施用時期であるため、穂肥診断した時の幼穂長が 1mm の場合、その 5 日後に穂肥を施用する。

【穂肥診断の方法】

- ① 幼穂形成始期頃の草丈を測る。
- ② 葉色（群落・SPAD 値）を測る。
- ③ 上記①②の測定値を「穂肥診断基準」に当てはめ、施用量を確認する。
- ④ 施用量が確認できたら、記載された施用時期に穂肥を施用できるよう準備する。

※穂肥施用できるのは、葉色が「笹の葉色以下 (3.5以下)」になってからである。

表2 穂肥診断基準

	葉色	葉色板		SPAD (値)	幼穂長 (mm)	草丈 (cm)	施用量 <ゴールド有機50>
		群落	単葉				
穂肥施用時	薄い	3.0以下	3.5以下	34.0以下	2	75まで	15Kg/10a
		3.0~3.3	3.5~3.8	34.0~36.0	5	78まで	
	標準	3.3~3.7	3.8~4.2	36.0~39.5	15	80まで	10Kg/10a
	濃い	3.7以上	4.2以上	39.5以上	—	80以上	施用しない!

例) 穂肥施用時期の葉色 (SPAD) が 36.0~39.5、草丈が 80cm 以下であれば、ゴールド有機50を10kg/10a施用する。

(3) 病害虫防除

①葉いもち病

- ・補植用の『置き苗』は、葉いもち病の発生源になるため、すぐに除去する。

②斑点米カメムシ

- ・斑点米カメムシによる被害を軽減するために畦畔雑草の除草を水稲の出穂15日前（6月中旬）までに終わらせる。

※前年より生育が進んでいるため、早めに畦畔除草を行う。

特に斑点米カメムシは、イネ科雑草を好むことから圃場内に発生しているヒエ等の雑草も併せて行う。

※畦畔を100m歩いて斑点米カメムシが3頭いたら、要注意である。

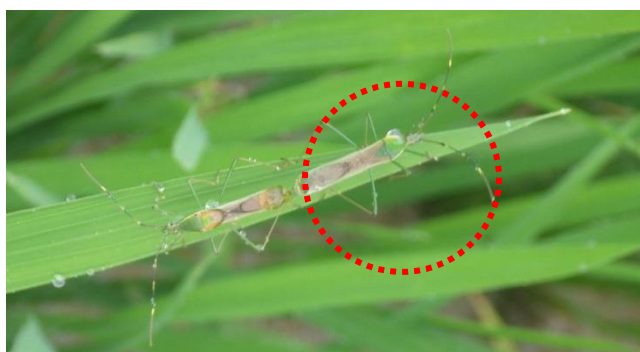


エノコログサやヒエが多発している畦畔はカメムシの住処になっている

管内における斑点米カメムシの20回すくいとり調査(6月3日)

地区	クモヘリカメムシ		ホソハリカメムシ		ミナミアオカメムシ		アカスジカスミカメ		シラホシカメムシ	
	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫
白石(畦畔)	5	0	0	7	6	0	0	7	0	0

※圃場横の畦畔雑草(エノコログサ等)に生息している斑点米カメムシを調査しました。



クモヘリカメムシ



ホソハリカメムシ

5. 普通期水稲の育苗管理

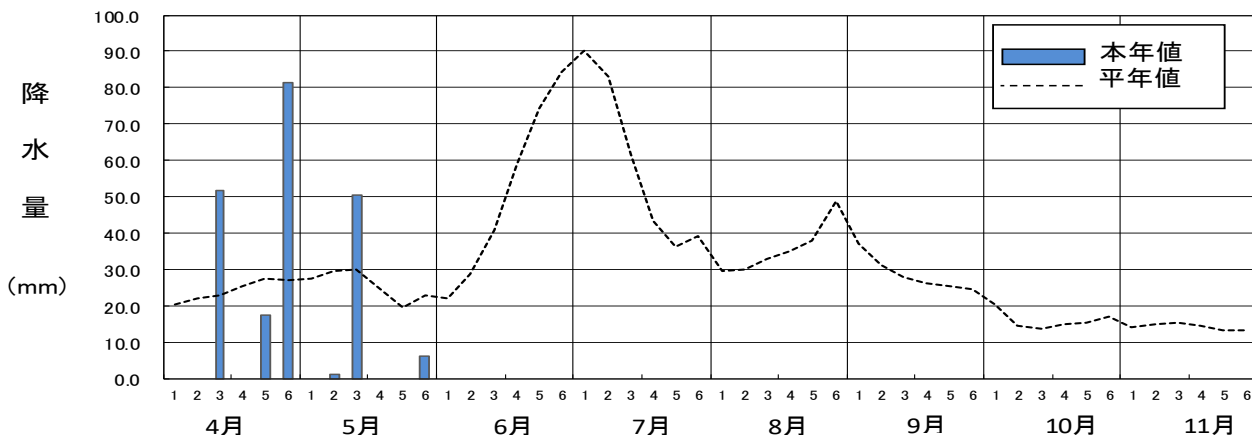
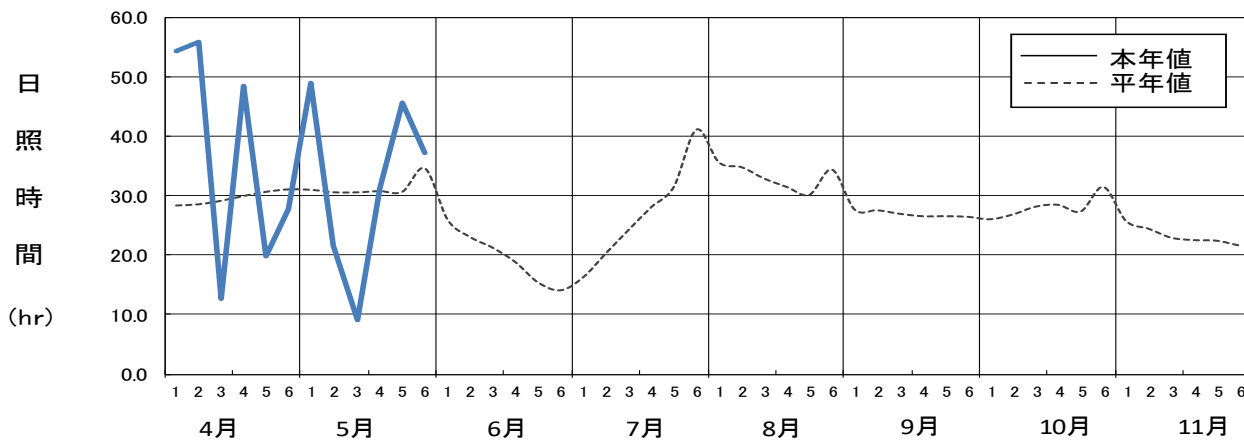
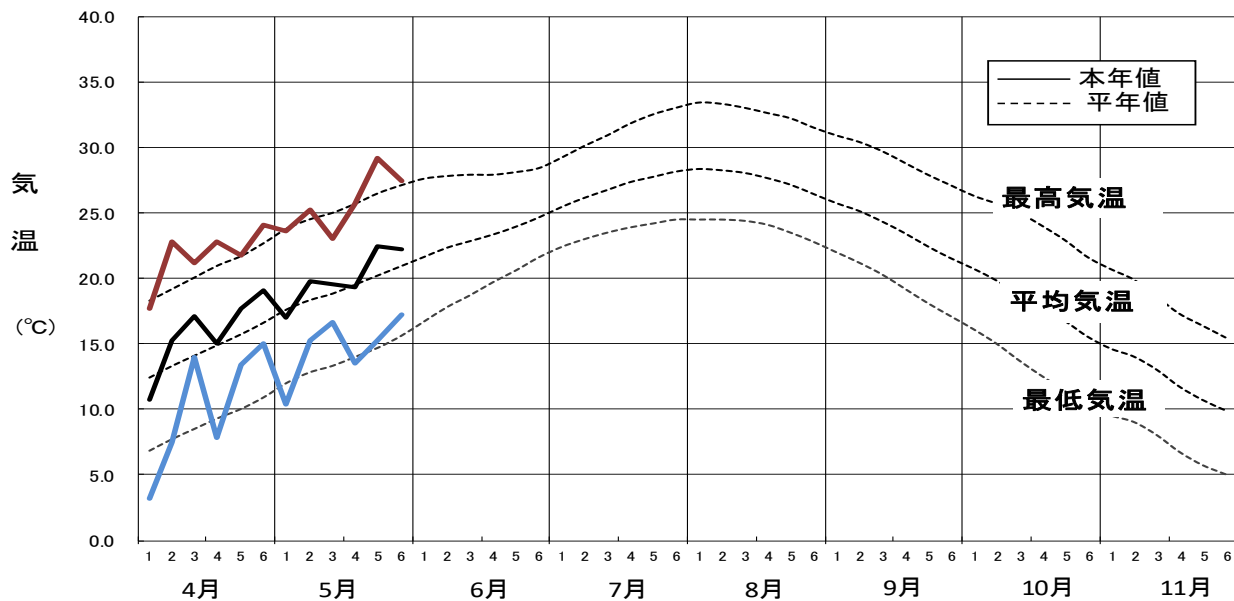
- 本年は、育苗期間が気温が高く推移したことで、被覆資材の除去が遅れたところでは苗丈が伸長し、軟弱徒長ぎみの苗となっている。特に夢しずくは露棚ができるような、うっぺいした状態の苗では、いもち病斑を確認している。

今後の天候次第では、他の品種でも「いもち病」の発生が懸念されるので、発生状態が甚だしい場合は、薬剤防除による対応を行う。

- 今年の麦類は平年より収量が多く、麦わらの量も多い。

麦わらすき込みを行った圃場では、ガスのわきが予想されるので、初期生育を促進するため、移植前日までに窒素成分で0.5g~1g/箱の弁当肥を施用する。

令和4年産 水稻作付期間気象図
アメダス観測値(白石)



月	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
	平年 (°C)	R4 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R4 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R4 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R4 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R4 (hr)	平年比 (%)
4月	14.5	15.8	1.3	20.5	21.7	1.2	8.8	10.1	1.3	145	151	104	178	219	123
5月	19.3	20.1	0.8	25.5	25.8	0.3	13.8	14.9	1.1	155	58	37	187	194	103